

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

| | | | |
|--|-------------------|-------------------|-------|
| 機関名 | 同志社大学 | 整理番号 | L03 |
| プログラム名称 | グローバル・リソース・マネジメント | | |
| プログラム責任者 | 和田 元 | プログラム コーディネーター | 内藤 正典 |
| <p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 本プログラムは、最も困難な状況にある国や新興国での課題解決に向けて、困難にある人々に寄り添い共に原因解明と解決法を志向できるリーダーを養成するという高い志に基づく教育プログラムであり、当初の理念に沿った体制と取組が着実に積み上げられてきている。 「グローバル・リソース・マネジメント (GRM) コモン演習」「GRM オンサイト実習」などの共通科目とサブ・メジャー科目を用意し、文理融合型教育と現場で役立つ技能の習得を目指した教育体制が整備されている。 以前に指摘された文系と理系の学生のキャンパスが離れているために両者間の交流機会が少ないという問題については、共通科目や実習、GRM キャリア形成支援セミナー、GRM コモンルームの活用等により適切な対応がなされているようである。 研究科での学位審査とは独立した QE の実施等、学位の質を保証する評価体制が整備されている。 修士1年からの経済的支援や文系・理系向けの科目群を整備するなど、以前に指摘された点について迅速に対応がなされている。 オンサイト実習については、訪問時点でのタイムリーな課題を見に行くものと一地点を継続して見に行くものの2種類を用意している。後者については宮古島の活動など継続的な展開が見られ、今後のプログラムの持続性という点から評価できる。 プログラムの継続という点では、留学生に対しこれから日本が提供していくプログラムという点で本プログラムは今後大変意味があるものと思われる。 優秀な学生が参加していると考えられるが、定員充足については引き続き努力が求められる。 <p>2. 意見 (改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラムとしては順調に進んでいるといえるが、支援期間終了後の継続性について具体的に考えていく必要がある。プログラムの理念を生かした上で、支援期間終了後に何を残し、何を打ち切るかについての具体的な検討が必要である。 このプログラムは、担当している教員の高い意欲とモラルにより支えられているが、今後全学プログラムとして継続する場合には、プログラム担当教員以外の全学的な理解が必要である。既にプログラム担当外の教員も交えた GRM 関係者懇談会等が実施されているが、引き続き努力を期待したい。 教員だけで学生に対し全てのサポートができるわけではないため、学生同士が助け合いネットワークを作れるような、カジュアルなコミュニケーションの場を作ることが重要ではないか。 他のリーディングプログラムにも同様の傾向があるが、留学生が活発である一方で、日本人は従来どおりのアカデミア志向が多いように見えた。アカデミア以外でもグローバルに活躍するキャリアパスを目指すような日本人のグローバル人材育成につなげていただきたい。 プログラムでは文理融合が重要な視点となっているが、特に文系の学生の間で博士論 | | | |

文の研究に本プログラムで得た視点をどのように生かせるのか見えていない学生がいるようであり、検討が必要である。